



第21回おきなわマラソン

第18航空団広報局

来る2月17日（日）に開催される第21回おきなわマラソンに向けて、今年も嘉手納基地では受け入れ準備を進めています。同イベントを支援する基地内のプロジェクトチームは、第18広報局渉外部、第18憲兵中隊、第18部隊支援中隊、第18医療群、第18施設群から構成されており、これら部隊の担当者が集まりこれまで数回会合が開かれ、嘉手納基地における交通規制、ボランティア体制、医療体制、基地内住民へ交通規制の周知などに関しての準備体制の確認作業が話し合われました。

例年200人を超す米軍関係者が同僚や友人、家族と集まって嘉手納基地内コースの沿道でランナー達を応援しています。今年も基地内を走り抜けるランナーたちを応援したいと、ボランティアの申し込みが続々と集まっています。

おきなわマラソン実行委員会によると、今年は昨年記録した最多参加数を有に超え13,647人がフル



マラソンに申し込み、およそ12,000人の走者が嘉手納基地内のコースを通過するものと予想されています。例年、嘉手納基地内にあるライズナーハイスクールが米軍関係者に対し便宜を計らい、おきなわマラソンの受付業務を手伝っています。今年は、161人の申し込みがありました。おきなわマラソン実行委員会によると全体でおよそ260人の外国人がエントリーしているとのことです。

(写真全て、米空軍：ジャスティン・ヴィゼイ上等兵撮影)



OKINAWA MARATHON!

SKOSHI KADENA JANUARY 2013



第21回おきなわマラソン

沖縄国際婦人クラブ、嘉手納基地を視察

児童施設への寄付活動

現役高校生、デリースが教えてくれる
嘉手納基地内学校情報あれこれ

- Career Practicum 実習科目
- 那覇商業高校とカデナハイスクールの交流会

視察研修

ナショナル・プレーヤー・ランチョン



沖縄国際婦人クラブ、嘉手納基地を視察

第18航空団広報局

OKINAWA INTERNATIONAL WOMEN'S CLUB OKINAWA INTERNATIONAL WOMEN'S CLUB OKINAWA INTERNATIONAL WOMEN'S CLUB

2013年1月28日、沖縄国際婦人クラブ (Okinawa International Women's Club - OIWC)会員約40名が嘉手納基地を訪問しました。訪問では、第18航空団の概況説明、エアマン&ファミリーレディネスセンター (Airman & Family Readiness Center) 及び赤十字社 (Red Cross) の業務内容の説明を受けました。

A&FRCの業務は軍人、軍属、その家族への支援が主な業務で、新しく嘉手納基地に赴任した隊員と家族へのオリエンテーションを始め、沖縄の文化や転職のためのセミナーなど、幅広い業務を行っています。赴任したばかりの隊員や家族には、本国から引越し荷物が沖縄に届くまで数ヶ月かかるため、とりあえず生活を始めるためのキッチン用品などが無料で貸し出しを行っているという転勤の多い米軍ならではの業務もあり、家族への支援が密接に行われています。

米国赤十字社は嘉手納基地内にも事務所があり、全従業員の97%はボランティアで構成されています。

今回、この赤十字社が行った東日本大震災への支援を含め、通常業務である応急処置、心肺機能蘇生法等の講座を開設しているとの説明がありました。業務の中には、米軍人、軍属の親族に事故や不幸が起きた場合、軍人らが緊急に本国へ戻るための連絡調整や支援も行っているとのことです。

さらに、第18航空団に所属するF-15戦闘機を見学し、パイロットから任務や機体の説明も受けました。

OIWC会長の嶋田玲子さんは「福島津波被害での『友達作戦』や米国赤十字の支援については私達日本人が大まかに知り感謝しているところですが、今回の訪問で再確認させて頂きました。また基地内では日本人従業員や軍人らの家族も含めたコミュニティーが形成されてる事に大変興味を持ちました。」と感想を述べました。



(写真提供：沖縄国際婦人クラブ)



(写真指定以外全て、米空軍：ジャスティン・ヴィゼイ上等兵撮影)

児童施設への寄付活動

ANGEL TREE PROJECT
BY 18TH MEDICAL GROUP
GIFT OF JOY TO AIRINEN!



クリスマスには贈り物をする伝統があります。その習慣に則り、嘉手納基地第18医療群は、与那原町にある児童養護施設「愛隣園」へクリスマスプレゼントを寄贈しました。

参加者の一人、第18医療群司令部スタッフ、エリカ・ダーハム軍曹は、「長期出張から帰還し、恵まれない子どもたちのために役に立てるこことを嬉しく思います。また、これからもこのような活動に参加していきたい。今回企画した、エンジエルツリープロジェクトで子どもたちにクリスマスの喜びを感じてもらえれば幸いです」と述べました。

このプロジェクトは、クリスマスの時期に合わせて地域住民と親善を深めるためのイベントをしたいという医療群理事会の願いから始まりました。

第18医療群検査室長ヤン・コレンダ大尉は、「副理事長のジェームス・ウェーランズ少佐は、プロジェクトの企画から実行まですべての過程でリーダーシップを発揮しました。このプロジェクトの成功はウェーランズ少佐あってのものだと思っています」と述べました。

(写真全て、米空軍：ヤン・コレンダ大尉撮影)



医療群は、2012年10月後半に嘉手納基地全体で行われた即応検査終了後もなく児童へ贈るプレゼントの寄付を呼びかけました。コレンダ大尉は、群内での反響はすばらしく短期間で自転車4台を含めた40数個のおもちゃが集まつたと話しました。

今回の企画は初めての試みでしたが、これからも愛隣園との関係を続けていきたいという医療群の願いから、3月には児童を基地内に招いてのバーベキュー やサッカー交流を行う予定とのことです。

日本語訳：第18部隊支援中隊 航空兵・家族支援センター
日米文化交流調整官 美里 奈々子





現役高校生、デリースが教えてくれる
嘉手納基地内学校情報あれこれ

PART 7

嘉手納基地広報局インターン生
嘉手納ハイスクール3年 デリース・ダニエルズ著・編集

Career Practicum 実習科目

インターンシップと聞けばお金を貰わないので働くという印象があるかもしれません、それだけではありません。カデナハイスクールではキャリアー・プラクティカム(career practicum実習科目)と言うクラスがあります。このクラスでは生徒達が自分の興味を持つて仕事分野を選びその分野に関わる仕事先でインターンシップを行う事ができます。

私もこのクラスを受けている生徒の一人です。去年の後期からキャリアー・プラクティカムを受講しています。最初は日本語を活かせるような職場で働きたいと思っていたのですがなかなかいい場所が思いつきませんでした。そんなときキャリアー・プラクティカムのコービー先生がこの広報局渉外部を紹介してくれたので、ここでインターンシップをする事に決めました。

同様にキャリアー・プラクティカムを選択した生徒の多くは、嘉手納基地内にある中学校や小学校などで実習しています。例えば音楽のクラスで先生の手伝いをしたり、小学校の図書館で読み聞かせをしたりする職場体験です。

キャリアー・プラクティカムは普通の授業の一環として行われています。生徒達は学校に行き、キャリアー・プラクティカムの授業になると、いったんコービー先生の教室へ行きタイムカードを押して自分の車か友達と一緒に自分のインターンシップ先へ行きます。ただしこの実習授業も他の授業と同じく90分しかありません。仕事の手伝い、移動の時間も含めて、90分以内には学校へもどり、次の授業に遅れないようにしなければなりません。

インターンシップだからと言って成績がつかないと言うわけではありません。キャリアー・プラクティカムの成績は二つの方法で評価されます。一つは週の終わりに私達生徒を引き受けている事務所の方に「勤務状況」を評価してもらうこと。もう一つは月の最後に提出する出席表で、その生徒がちゃんと「出勤」したかどうかを確認した上で、成績がつけられるシステムになっています。

那覇商業高校とカデナハイスクールの交流会

1月10日、那覇商業高校とカデナハイスクールとの交流会がありました。那覇商業高校とカデナハイスクールは3年以上掛けて交流を積み重ねてきました。カデナハイスクールで中級クラスの日本語を教えるサマー先生が那覇商業高校の英語の先生と交流があった為、今回の交流会が実現しました。

去年の11月にはカデナハイスクールで交流会が行われ、そして今回は私たちカデナハイスクールの生徒が那覇商業高校を訪ねました。昨年の交流会では、カデナハイスクールと那覇商業高校の生徒が二人一組のペアを組み、カデナハイスクール生がとっていた授業と一緒に受けました。昼食を基地内にあるフードコートで食べた後、お別れしました。



(次ページへ続く)



授業

EXCHANGE!

貼り紙 →

10日に行われた交流会では先ず前回組んでいたペアのパートナーが学校案内を行いました。その後、カデナハイスクール生は各自、事前に決められた授業に参加しました。私は他の二人のカデナハイスクール生と一緒に2年7組の「現代文」を受講しました。授業にお邪魔したにもかかわらず、担当の先生や生徒たちが私達を快く受け入れてくれました。最初の15分くらいは質問タイムとなっていて2年7組の生徒たちが、私たち3人にいろいろな質問をしました。このクラスでは夏目漱石の「こころ」を読みました。日本の高校で授業を受けたのは初めてだったのでとても緊張しましたが楽しめました。

授業中に一番驚いた事は授業が50分しかなかった事です。何故ならカデナハイスクールは90分授業だからです。私たちカデナハイスクールの生徒は90分授業に慣れているので50分はとても短く感じました。もう一つ驚いた事は先生が各教室に来て授業をする事でした、カデナハイスクールでは、ほんの5分しかない休み時間に生徒が次の授業のある教室へ移動しなければならないからです。

那覇商業高校の「国際科」というクラスの生徒は今年3月にアメリカの口サンゼルスにホームステイに行くそうです。そのクラスに参加した私達日米の生徒は「アメリカでの生活」について話し合いました。那覇商業高校の生徒たちは自分たちの英語がちゃんと通用するのか、ということが一番多い質問でした。

すべての授業が終了し、那覇商業高校の生徒たちと一緒に沖縄そばを食べました。デザートにはぜんざいがでました。ほとんどのアメリカ人生徒にとってぜんざいは見たこともない食べ物だったので、生徒たちは興味津々に食べていました。給食を食べ終わるともう帰る時間になっていました、やはり楽しい時間は早く過ぎてしまうんですね。沖縄に高校がありながらも、カデナハイスクールは地元沖縄の高校生との交流があまりありません。こういう機会を作ってくださったサマー先生、那覇商業高校の先生方、そして校長先生に感謝します。



以上、デリでした。See you!

視察研修 第18航空団広報局



(米空軍：ヘイレイ・ディヴィス上等兵撮影)

1月17日、奈良県に所在する航空自衛隊幹部候補学校の飛行幹部課程より、あよそ30名の航空自衛隊員が嘉手納基地を視察しました。

嘉手納基地の概況説明、KC-135空中給油機とE-3航空空中管制機の任務や運用能力の説明を受けた後、飛行場へ移動しKC-135とE-3機の地上展示を見学しました。同課程入校の隊員は卒業後、パイロットとして各自衛隊基地へ配属されます。嘉手納基地では、毎年あよそ15件の防衛省機関や航空自衛隊の視察研修を受け入れています。

上記視察のほか、以下の団体の訪問がありました。

在福岡県 航空自衛隊芦屋基地 第3術科学校 基地警備基礎課程

在福岡県 航空自衛隊芦屋基地 第3術科学校 補給幹部課程

鳥取県鳥取市議会、長崎県佐世保市議会、愛媛県議会、東京都福生市議会

**WELCOME TO
KADENA AB!!**

ナショナル・プレーヤー・ランチョン

第18航空団広報局

1月24日（木）、嘉手納基地内の下士官クラブで、ナショナル・プレーヤー・ランチョン(国家の祈りの昼食会)が開催されました。

このナショナル・プレーヤーの食事会の歴史は1930年代のアメリカで、地域のリーダーやビジネスマンが食事を共にしつつ聖書への理解を深め、信頼と相互援助の関係を築いたことに始まります。昼食会は、キリスト教だけでなく様々な信仰をもつ方々の参加が歓迎されます。

今年は、嘉手納基地を訪問中の米空軍のチャフレイン（従軍牧師）の組織で最高職位を務めるハワード・スタンダール少将がゲストスピーカーとして同席し、これまでのアメリカの戦いと信仰の自由の歴史について語りました。また日本側から航空自衛隊の代表者、元自衛官、地元の名誉司令官も招かれました。地域から参加した来賓者のなかには戦争 戦後の時代を経験された方々も多く、通訳を介してテーブルに同席した軍人らが熱心に体験談に耳を傾けていました。



(米空軍：マリア・ジェンキンス上等兵撮影)

Skoshi Kadena, published by 18th Wing Public Affairs, Kadena Air Base Kadena Web Site: <http://www.kadena.af.mil> E-mail: 18wg.pa@kadena.af.mil



Chief, 18th Wing Public Affairs Office: Major Christopher Anderson

Editors: Ms. Takako Fukuura, Mr. Hideaki Sakihama, Ms. Keiko Toma, Ms. Sayaka Kawatake, Ms. Makiko Miyara and Ms. Derrice Daniels
Graphic Designer: Ms. Naoko Shimoji

The *Skoshi Kadena* is published monthly and is an authorized publication by 18th Wing Public Affairs in Kadena Air Base. Contents of the *Skoshi Kadena* are not necessarily the official views of or endorsed by the U.S. Government, the Department of Defense, or the Department of the Air Force. The editorial content is edited, prepared, and provided by the 18th Wing Public Affairs Office. All photographs are Air Force photographs unless otherwise indicated. Contents may not be reproduced, distributed, or translated without the prior written permission from the 18th Wing Public Affairs Office.

『スコシカデナ』は、嘉手納基地第18航空団広報局より毎月発行されている出版物です。編集内容は、第18航空団広報局により編集、準備、提供されています。掲載される内容は、米国政府、米国国防省または米空軍の見解・承認を必ずしも反映するものではありません。第18航空団広報局の書面による事前許可なしに、掲載写真や記事の無断転載を禁止します。